

# うつのみやこども賞だより

## 平成19年度 第3回

市内5・6年生の選定委員さんたちに、月4冊の本を読んでもらい、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

### ～読んだ本の感想より～

#### 《今月選ばれた本》

#### 「走る少女」佐野久子 / 作 (岩崎書店)



比呂はとてもまじめな子なんだと感じました。読み終わった後、「陸上やってみたいなあ～」と思いました。

「おにいちゃん、わたし風になるよ。」というところは、心に残ったような気がしました。

比呂は足のきずやお兄ちゃんのことをかかえてたのに、陸上部に入ったときは、やっぱり陸上が好きなんだなと思いました。

比呂自身も走ることを決めたら性格が変わったみたいで、比呂が自分に自しんを持ってよかったと思う。

リレーの結果が知りたかったけど、そういう終わり方もイナ～と思った。

でてくる人たちの感情がよく分かりました。

#### 「大切な仲間たち」

辻信太郎 / 作 (サンリオ)

仲間と協力することの大切さがわかった。

最後にハンナとジョージがけっこんできてよかった。

物の様子や周りの出来事などがくわしくかかれていた。

最初にねずみの名前がいっぱい出てきて、覚えられなかった。

絵がかわいい。

私はねずみじゃないから分かりませんが、家の中で生きてきたのに急に森で生きていくというのは大変なんじゃないかと思いました。

ジョージはとても勇気があってすごいと思いました。

#### 「酸素は鏡に映らない」

上遠野浩平 / 作 (講談社)

読み始め少しこわいなと思った。へんな男の人がでてきてこの人はなんなんだろう？と続きが気になり、夢中になって読んだ。

とても、びっくりした。

他人にとって自分は毒物だというのがわかった。

柊の言っていることは意味不明だったけど、エンペロイド金貨をめぐっているんなことが起きるのがおもしろかったです。

おもしろかったけど、すっきりしなかった。続編がありそう。物語と一緒にいるのがおもしろかった。

最初はこの話はなんだろうなと思いました。

#### 「タイドプール」

長江優子 / 作 (講談社)

よみ始めると、とまらない本でした。

ちひろとえり子が最後に仲直りできてよかった。

ごくふつーの女の子の話なのにマコさんによってかわった生活がおもしろい。

「お母さんがとどいた」とかいてあった時、人形かと思った。

えり子とマコさんの関係がうまくいなくてハラハラドキドキした。

文を読むだけでその絵が頭で想像できました。

すごくいい本でした。何回読んでもあきなかったです。